

IX. 推進体制と計画の進行管理

1. 計画推進体制

まちぐるみでプランを推進する、長岡京観光まちづくり協議会

本プランのコンセプトである「上質な“郊外の京”の暮らしで魅せる 観光まちづくり」をまちぐるみで共有し、多様な主体がそれぞれの立場からアクションを起こしていくためには、関係主体が本プランについて共通認識を持ち、連絡・調整を定期的に行う場が必要です。

そのため、本プランの事業進捗管理や、事業効果の把握、統一コンセプトに向けた関係主体の連絡調整の場として、市内関係団体で組織するプラットフォーム組織「長岡京観光まちづくり協議会」を立ち上げ、着実に事業を推進していきます。

< 進行管理を担う、「長岡京市観光推進本部」 >

本プランの着実な進行管理に向けては、「長岡京観光まちづくり協議会」の中に、市内の主な主体から組成し、市全体として進むべき方針を検討する「長岡京市観光推進本部」を置き、施策・アクションの実施状況や、目標の達成状況を把握していきます。

「長岡京市観光推進本部」では、行政、観光協会や商工会等の各種団体、企業、NPO 等市民活動団体が各々の立場からの取り組みの調整を図るだけでなく、変化の激しい観光市場の動向をキャッチアップし、本市全体のまちづくりのあり方から、観光に望む役割やビジョンを指し示していくことが期待されます。

また、「長岡京市観光推進本部」には、京都府等、長岡京市の観光振興施策と関連する動きを展開する、本市以外の行政等関係者も参加し、広域連携をはじめとした施策の連携や相乗効果について検討していきます。

＜観光コンテンツの組成に取組むチーム形成の場「観光創造部会」＞

今後、観光まちづくりの推進においては、共通テーマに基づいて飲食・買い物・宿泊・体験プログラム等の観光コンテンツを組成・パッケージ化していく、市内事業者(＝プレイヤー)によるチーム形成が必要です。

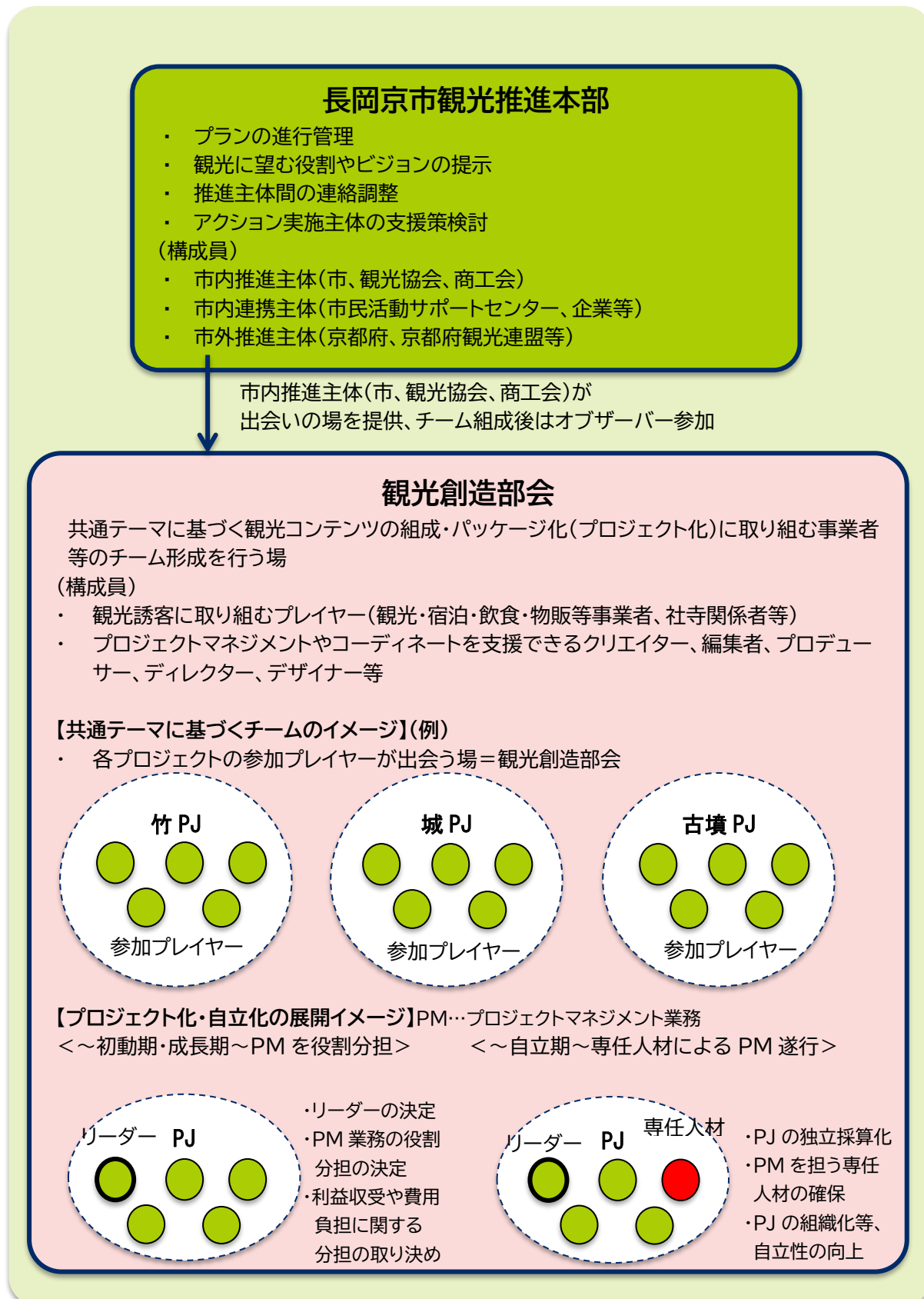
そのため、本プランの施策である「テーマに沿ったプレイヤー間の連携促進に向けたワークショップ等の実施」を展開しながら、上記のチーム組成を推進するネットワーク・場として「長岡京観光まちづくり協議会」の中に、「観光創造部会」を設けます。

実際の観光コンテンツの組成・パッケージ化は、複数の事業者によるサービス・商品開発のプロジェクト型の業務として進められることが想定されます。チームに参加する事業者がそれぞれの商材やサービスを持ち寄るだけではプロジェクトは進行せず、プロジェクトそのものの目的とテーマ・目標設定、チームメンバー間の役割分担や到達点の設定とスケジューリング・進捗管理、コミュニケーション管理、地域内の立場が異なる多様な主体への説明や調整、フィードバックといった、見えにくいけれども非常に多岐に渡る重要な業務であり、プロジェクトマネジメントとコーディネートを担う主体が必要になります。

プロジェクトマネジメントとコーディネートを、専門人材を抱えて行うのか、チームに参加する事業者間で分担するのかは、各チームメンバーの特性や能力により判断することが適切ですが、チーム組成の初動期には、まずそれら業務の必要性を関係者が認識し、取り組み規模に応じた対応方法を選択していくことが望めます。

「観光創造部会」では、チーム組成の初動期にあるプロジェクトについて、プロジェクトマネジメントとコーディネートといった業務のノウハウ等提供や一部専門人材による支援等を行い、プロジェクトの自走を目指していきます。

(「長岡京観光まちづくり協議会」の体制イメージ)



2. 各主体の役割

(1) 各アクションのプレイヤーとして期待される主体の役割

① 市内事業者（店舗や企業）に期待される役割

**旅行業・宿泊業等、観光への比重が高い事業者は
“観光コンテンツ群”の組成に向け、連携とチームづくりの牽引役に**

観光需要を取り込み、地域の「稼ぐ力」を発揮するためには、旅やお出かけで訪れた人に満足と感動を与えられる水準に、観光コンテンツの質を向上させることへの高いモチベーションを持った事業者によるリーダーシップが不可欠です。

旅行業・宿泊業をはじめ、旅やお出かけで訪れる人をメインターゲットとする業種の事業者には、自社で提供できる商品やサービス以外のものも組み合わせて、顧客の満足度を高めていく必然性があります。そのため、これらの事業者には、観光コンテンツのパッケージ化に向けた事業者間連携やプロジェクト化の牽引役(=キープレイヤー)を担っていくことが期待されます。

**飲食・物販・サービス等の事業者は
「観光」による消費に目を向け、観光まちづくりの積極的なプレイヤーに**

今後、本市においても人口減少が進む中、飲食・物販・サービス等、これまで地域住民等を主要顧客としてきた事業者には、商圈内の需要縮小の可能性を見据え、「観光」による消費に目を向け、積極的に需要を取り込んでいくことの重要性が増しています。

また、with コロナ・ポストコロナ期に近隣へのマイクロツーリズムといった、新たな旅やお出かけのスタイルの拡大も見込まれる中、市民や鉄道沿線住民等の「観光的需要」が増加していくことも注目されます。

市内の飲食・物販・サービス等の事業者には、観光需要やその新たな可能性により積極的に目を向け、観光まちづくりのプレイヤーとして、自らの事業の中で観光コンテンツの組成に取り組んでいくことが望まれます。あわせて商店会等の取り組みとの連携にも期待されます。

②市民活動団体に期待される役割

事業者の組成する観光コンテンツを地域資源として認識し PR する役割

長岡京市では、多くの市民活動団体が、多様なミッションとテーマを持って活発に活動を展開しています。地元への愛着と誇り豊かな市民活動団体は、長岡京市の地域資源の価値を再発見・再確認する力に優れています。

市民活動団体の中には、日々の活動をアレンジすることで、体験プログラムとして提供できるものもあり、プレイヤーとして、事業者と連携した体験プログラムの造成も期待されます。

事業者と連携した観光コンテンツの組成や販路の拡大といった経済活動が、地域資源の磨き上げや発信につながると共に、本市の「稼ぐ力」の向上や地域内の経済循環等、公益につながることに理解を深め、事業者や企業との連携や地域住民との橋渡し等に積極的に関わっていく役割も期待されます。

③個人としての市民に期待される役割

長岡京市での暮らしの魅力を積極的に楽しみ、市外へと伝える役割

長岡京市に暮らす市民には、市内の事業者・企業が提供する飲食・買い物・体験プログラムやイベント等、観光コンテンツを積極的に利用し、本市での暮らしの魅力として楽しむことが望まれます。

市民に愛される店舗やサービス、また社寺や自然といった観光資源は、市外の人にとって魅力的に映ります。市民が楽しく休日の暮らしを送っている様子が伝わるまちは、市外の人を訪れたい気持ちを喚起します。特に、今後は「住むきっかけ」としての観光やワーケーション、滞在型観光といった、新たな観光スタイルも広がることが予測される中、市民が旅やお出かけで訪れる人との交流機会へと積極的に関わることで、関係人口の増加といった効果を生み、それが定住へと繋がっていくことも期待されます。

(2) 主な推進役に期待される役割

①市の主な役割

本プランの進行管理を担いつつ、プレイヤーの発掘・育成と活動支援、自治体ならではの連携推進を展開

市は、本プランのアクションを担う、市内の事業者・市民活動団体等プレイヤーを発掘・育成し、その活動を積極的に支援していきます。

また、観光協会、商工会といった、観光まちづくりを推進する市内の主体との情報共有やそれぞれの取り組みの相乗効果を図ります。

あわせて、庁内関係各部課、府、国や周辺自治体等との連絡・調整といった、自治体にしか担えない連携推進を行うとともに、本プランの進行管理を行うこととします。

②観光協会の主な役割

観光まちづくり推進の中心として、プレイヤーの積極的支援と、観光の総合窓口として情報発信・環境づくりを担う

観光協会は、本プランの観光まちづくりを推進する中心として、市・商工会と観光振興の方針を共有し、市内の事業者・市民活動団体等プレイヤー間のコーディネートやそれぞれが展開する活動を積極的に支援していきます。

また、長岡京市の観光に関する情報の総合窓口として、情報発信の中心を自ら担っていくとともに、観光客の利便性や快適性を確保するための各種ツール(マップやホームページ等)の充実や、環境整備を担っていきます。

③商工会の主な役割

事業者とのネットワークを活かし、事業者間の連携をコーディネート

商工会は、市・観光協会と観光振興の方針を共有し、本プランにおける地域の「稼ぐ力」を引き出すための「観光(観光まちづくり)」を進めるにあたり、市内事業者・企業とのネットワークを活かし、プレイヤー間の連携を積極的にコーディネートしていきます。

また、市内の事業者・企業の経済活動を支える立場であることから、観光まちづくりに取り組む事業者・企業の活動を積極的に支援していきます。

3. 計画の進行管理

(1) 進行管理の体制

本プランの進行管理は、「長岡京観光まちづくり協議会」における長岡京市観光推進本部で行います。

長岡京市観光推進本部は、プレイヤーのアクションを推進する役割を担う、長岡京市、京都府、長岡京市観光協会、長岡京市商工会、また市民活動の情報が集まる長岡京市市民活動サポートセンターで主に構成し、それぞれ本プランに位置付けているアクションの実施主体として可能性のある事業者や市民等の情報を収集し、アクションの着手状況を把握するとともに、目標指標の数値の把握、成果の要因分析を行います。

(2) 進行管理の方法

進行管理は、PDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルの考え方に則り行います。

具体的には、年2回、長岡京市観光推進本部の構成員がそれぞれに推進する取組内容や、観光創造部会の活動内容を把握し、本プランに位置付けるアクションの実施状況に関する情報を集約します。その上で、各構成員が、どのような方法で各アクションを支援するのかを検討し、各年次の推進計画(P)とします。

本プランのアクションについて、どのような主体がどのように着手したのか、また各構成員がどのようにアクションを支援したのかを把握・整理し、各年次の推進計画の実行状況を確認(D)します。

評価については、各年次に把握できる目標指標を確認した上で、各構成員が分担して各アクションの実施主体への聞き取り等も実施し、定性的な成果等も加味しながら、支援の方法等の改善につながる検討を行います。数値目標の達成状況については、一部そのための調査も必要になることから、プランの中間年と最終年に要因分析も含めて行うこととします。(C)

本プランを推進する上での各年次の改善に向けては、前年のアクションの評価を受けて、各構成員がどのような方法で各アクションを支援していくのかを検討し、次年次の推進計画に反映・実行します。(A)